

9月7日（土）ホームカミングデー 臨床心理学分野分科会 報告

9名の卒業生が集まり、渡部純夫先生と個人の抱えている課題について話し合いを行いました。現場での豊富な経験もあり、学生時代とはまた一味違う盛り上がりとなりました。以下話し合いの一部となります。

辛い立場にある人が立ち直っていくプロセスについて

- ・ 辛い状況に陥った人は幼少の頃の自分に返ることがあるが、それは自分との適切な距離を保つためでもある。
- ・ 辛い立場に置かれた人は自分を開放する手段をもつことが重要である。

セラピストとクライアントの信頼関係・人間性について

- ・ 認知行動療法とはクライアントとセラピストの信頼関係で効果があがるものである。セラピストの人間性が試される。「病気を治す」のではなく、かかわりを持ちながら、クライアントが立ち直るきっかけを与えるものである。
- ・ 夫婦間の介護は結婚生活の楽しかったことを思い出し、それを糧に頑張る人が多い。辛い思いをこえると、人間は強くなれる。大きな試練では夫婦の関係性が試される。

時間が足りないと終わりを惜しむほどの会となりました。また、現場での経験を積み先生・みなさんとともに臨床心理についての理解を深めていきたいと思います。